



月刊 千葉労働動力

国鉄千葉動力車労働組合

〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号 (DC会館)
鉄 電 千葉 2 9 3 5 ・ 2 9 3 9 番
公 衆 043 (222) 7207 / FAX.043 (224) 7197
ホームページ http://www.doro-chiba.org/
E メール doro-chiba@www.doro-chiba.org

2001.10.2 No. 5379

励ます会盛大に挙行される

鶴岡さん、西森さん、高柴さん、笹生さん、山下さんが熱い挨拶！



第三〇回定期大会終了後、本年度で勇退される、鶴岡(勝浦)、西森(千葉転)、高柴(旧成田)、笹生(館山)、山下(津田沼)、各位の励ます会が、千葉市・パルルにおいて開催された。

動労千葉の闘いの歴史を体言してきた思いを、前へ！未来へ！

動労千葉の闘いの歴史を労働者としての自らの信念と、仲間を信頼し団結を築きあげてきた軌跡を感銘するために、大会に

出席した組合員が励ます会には参加をし、勇退される五名の仲間を囲んで各テーブルでは、歓談と想親の輪がひろがった。

励ます会では、冒頭、本部・中野委員長がいさづつに立ち、「本日の第三〇回定期大会に参加をいただき、この期をかりて励ます会を企画した。今回、五名の組合員が六〇才を過ぎる、迎えるという時期に当たり、二〇数年間の闘いの歴史を語り合ってきた仲間の会を行なうことができた」と、紹介を行なった。

新たな世代の動労千葉建設への原動力となった励ます会！

・山下(津田沼支部)

「盛大に励ます会を行なっていたが感謝しています。本大会で三〇回と動労千葉としても記念すべき大会であり、感無量です。私は二九才から労働運動に入った。当時、津田沼電車区にドライバーコース二七名をもって支部を作った。支部を作ること事態が難しいと言われてきた中で、何としても支部を作ろうとして頑張った記憶が今も新しい。皆さんがこれからも動労千葉を愛し、新しい執行部が確立されるだろう。厳しいときにはひとりひとりが活動家になるという意識で、執行部をもちたれば、健全に進んでいくと考えている」

・西森(千葉転支部)

「激動につく激動だった。分割・民営化反対闘争での二八名の解雇、普通の組織だったら潰れていただろう。組織が存続していることはすばらしいことだ。当局側の攻撃が厳しい中、これだけの数をもって闘いを継続していること、動労千葉の火を消すことなく継続していつてもらいたい」

・高柴(旧成田支部)

「入社し佐倉の職場に入って青年部運動から組合運動にかかわってきた。分割・民営化で解雇



となったが、今後ともOBとして頑張っていきたい」

・鶴岡(勝浦支部)

「中野委員長と同時期に青年運動に入った。私は私なりに組合員の皆さんと一致団結して組織を作ってきた。団結して闘っていることに敬意を表して御社の言葉としたい」

続いて、白石OB会会長の動労千葉のより一層の発展を祈り、乾杯の音頭を受け歓談が入っていった。

励ます会の最後には、結果的に被解雇者が登壇して、おののから動労千葉への熱い思いが語られた。

ここに動労千葉の団結の力の源をみたものだ。この絆への思いを胸に、参加した全組合員が第三〇回大会での新たな世代の動労千葉建設に向けた闘いの原動力となった。